

豊岡発 環境保全重視したものづくり



漁網を再利用した素材で作られたかばん。手前には漁網も展示されている。いずれもトヨオカ・カバン・アルチザン・アベニュー

海洋プラスチックごみの削減と資源循環を目指し、使用済みの漁網を再利用して製造したかばんが人気だ。手掛けるのは、国内最大の産地、豊岡市の「豊岡靴」メーカー11社。環境保全を重視する姿勢が、地場産業のブランド価値や需要を高める向上させた。各社はこうした動きが「ものづくり産業から他の産業へも広がっていく」と期待している。

(石川 翠)

使用済み漁網かばんに再生

「こちらのかばん、使いつつ漁網から作られているんですよ」
豊岡市の市街地で、かばんの販売店が集まるカバンストリート。その一角にある豊岡靴の販売店トヨオカ・カバン・アルチザン・アベニューの橋本貴広店長(39)が説明する。
店頭の棚に並ぶのは、トートバッグ(7万9900円)やショルダーバッグ(2万3100円)。その手前には、淡い水色の漁網が置かれ、素材として活用していることをPRする。

海洋ごみ削減 メーカー連携

2年前から、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指す取り組みを検討。日本財団が海洋ごみ削減と資源循環のために新設した一般社団法人アライアンス・フォー・ザ・ブルー(東京)が発案した「漁網を再生した生地づくり」を知り、参加を決めた。豊岡はスワイガニなど漁業が盛んで、それも後押しした。
生地は、北海道の漁網店がサケ漁で使われたナイロン製の漁網を回収し、東京にある素材再生企業がペレット(再生樹脂)化。それを大阪市の織物会社が糸に紡ぎ、布に織って生地に仕上げる。全国規模の連携事業だった。
生地の開発メーカー、モリト(大阪市)は、カニ漁を行う但馬漁協(兵庫県香美町)と組んで、地元で使われた漁網の資源化も模索する。カニ漁の網は素材が丈夫なため再生コストが高く、現時点で商品化は難しいが、再生しやすい素材の漁網の一部を持ち帰って、漁師が現場で使える小物などを企画している。

名前【 】

- ①使用済みの漁網を再利用して製造したかばんは何を目指して作られていますか。

【 】と

【 】を目指している

- ②そのかばんをつくっている国内最大の産地は何市ですか。同地域で盛んな漁業は何ですか。

【 】市 【 】漁

- ③再生かばんの生地はどこでどのように連携してつくられていますか。

【 】を回収し

【 】化

【 】に仕上げる

- ④自分の地域のSDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指す取り組みを調べてみよう。

【 】